

ごあいさつ 総長 竹内成之

春暖の候、ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、当センターも「循環器・呼吸器病センター」と名称変更し、お陰をもちまして、無事に一年が経過いたしました。これもひとえに先生方の御支援のたまものと心から感謝いたしております。

また、昨年度、熊谷市医師会並びに深谷市・大里郡医師会の先生方と、医療連携に関する協議会を開催したところ、多くの先生方に御出席いただき、貴重な御意見をいただきました。本年度は他の地区の先生方とも同様の会議を持たせていただき、センター運営に活用させていただきたいと思っておりますので、今後とも御指導くださいますようお願い申し上げます。



喘息診療の新たな試み

副病院長（呼吸器内科） 金澤 實

平成 10 年 4 月 1 日に循環器・呼吸器病センターとして再スタートして以来、呼吸器内科、呼吸器外科ともに前年度に比べ 20～30% も上回る入院患者増となっております。これを機会に、外来の非結核性呼吸器疾患の診療においても、広く県内の医療の中心として、その重責を果たして行きたいと考えています。

さて、気管支喘息は有病率が一般人口の 3～4% と高く、呼吸器内科外来で最も症例数の多い疾患です。喘息は寛解増悪を繰り返し、難治性であり、時には発作のため生命を落とすこともある疾患です。これからの喘息診療の方向として、自己管理による QOL (quality of life) の改善と重症発作の防止があげられます。そのためには、医療者と患者双方で協力体制を作り上げ、喘息に対して正しい知識を共有し、種々の状況に適切に対処できるようにすることが必要です。具体的な治療に関していえば、ピークフローメーターを用いた自己診断と治療ガイドラインに基づく自主的な

服薬のウエイトがさらに高まると考えられます。このような喘息診療を実現するため、当センターでは短期間の入院による集中的な患者教育指導のプログラムを設けました。

喘息の教育入院では、自己管理技術の習得により、病状の改善と重篤な病状を回避することを目的としています。御参考までに教育入院の日程表を示しました。呼吸器内科だけでなく、看護・薬剤・検査・リハビリテーションなどの各部門が協力してプログラムを実施します。入院の対象は、当センター受診中の患者さんだけでなく、他の診療所などから御紹介いただいた患者さんについても教育指導を行います。教育入院の終了した患者さんは積極的に逆紹介させていただき、当センター外来では、診断が困難な症例や難治例の治療を行いたいと思っております。

このようにして喘息診療の役割分担を行い、病診連携を推進して、喘息医療の質を高めて行きたいと考えております。

喘息教育入院日程表

	月	火	水	木	金
午前	【入院オリエンテーション】 ・採血 ・処方確認 ・病棟内案内	【治療薬】 ・薬の効果と副作用 ・服薬法について （実習）	【自己診断】 ・ピークフローの測定 （実習）と評価（講義）	【自己治療】 ・症状の評価と発作時の対処	【憎悪因子】 アレルギーや感冒への対策 【個別退院指導】 ～退院～
午後	【喘息教育入院の目的】 （講義） 【呼吸リハビリ】 講義と実技	【肺機能検査】 【呼吸リハビリの実習】	【肺機能検査】 【呼吸リハビリの実習】	【胸部CTスキャン】 【呼吸リハビリの実習】	
【ホットメイト検査】（24時間検査）					